

## 令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	25人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	ジャングルジム
使用学年及び人数	幼稚部年少2人、年中2人、年長2人、小学部1年1人、3年5人、5年1人、6年4人
使用頻度	幼稚部あそび、昼休み、小学部自立活動等 毎日
使用状況	<p>設置した中庭は普段から幼児児童が目にし、なじみ深く活動機会も多い場所であるため、ジャングルジムが中庭のシンボリックな存在となっている。</p> <p>幼稚部は、気候のいい時期に自由あそびや昼休みの中庭あそびで幼児たちが使用している。友達とジャングルジムに乗ったまま追いかっこをしたり、一番上まで登って下にいる友達に声を掛けたりして楽しんでいる。</p> <p>小学部は、自立活動の時間に手足の動きを習得するために活用したり、中庭の畑等での活動時に終了後に友達と楽しく使用したりしている姿が見られる。</p> <p>昼休みには幼児児童が自由にあそび、異年齢の関わりを持つ場にもなっている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>ジャングルジムの設置から2年経ち、幼児児童にも馴染みの遊具となっている。昨年は苦手だった幼児も一番上まで登れるようになったり、横に寝そべるようにしてあそび方を工夫したりするようになった。幼児や教師が上まで登って友達の名を笑顔で呼んだり、それを聞いた2階の小学部の児童が窓から手を振って名を呼び合ったりと、遊具によって関わりを持つこともできた。小学部の児童も上り下りに慣れてスムーズに移動できるようになったり、自分から遊具であそんだりする児童も増えた。</p> <p>ジャングルジムによって身体を使ってあそぶ機会も増え、身体感覚を養ったり友達同士の関わりを増やしたりすることにつながっている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>常時幼児児童が使用する中庭に設置したため、年間通じて活用していく。安全面に十分配慮しながら使用していきたい。</p> <p>遊具のパイプ先端のゴムが外れて落下していることがあり、修繕していきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>幼児児童の心身の成長や発達のために、本遊具を有効に活用している。今後もみんなであそべる遊具として、大切に使用していきたい。</p>

## 2. 活用の様子



幼稚部年中男児がジャングルジムに寝そべるようにして乗り、見てほしいと笑顔で友達や教師を呼んでいた。その姿を見て年長男児も真似しようとジャングルジムに登っている。あそび方にも工夫がみられるようになってきている。



ジャングルジムで追いかっこをしている様子。手足を使って遊具内を自由に動き、友達とのやりとりを楽しんでいる。年少男児2名(水色帽子)はまだ登るのが怖くて、地上でジャングルジム内を歩き、迷路のようにして楽しんでいた。



小学部3年生が、自立活動の時間にみんなでジャングルジムを使用している。身体の動きがぎこちない児童が一段登ったバーに両手でつかまり体勢を維持し手足の動きを練習している。上まで登ることが得意な児童が登り方を友達に伝える様子も見られた。



本校中庭の様子。右側にある小学部校舎に面した位置にあるため、どの教室からも見え、友達があそんでいる様子や声が届きやすい環境にある。